

理系国語

現代文

問一

「漢字は読みをカタカナに、それぞれ改めよ。」という設問条件に対して、読みをひらがなで解答した受験者が多かった。もちろん、ひらがなの解答は、すべて不正解とした。

各設問では、b「苛烈」の読みを「シレッ」とする誤答が多かった。書きの設問では、a「粹」を「粹」とする誤答、h「巧妙」の「巧」が書けていない誤答が目立った。

問二

本文に書かれている具体的な内容を羅列しただけで、論理的構造に欠ける答案が目立った。この設問では、本文の抽象化された一文の論理構造に従って、それに肉付けするようにして具体化するというプロセスが必要であった。この設問のように、具体化を要求されている場合には、どのように論理性を構築するかを考えよう。

問三

一般化(抽象化)が要求されている設問にもかかわらず、具体的に解答している答案が多かった。また、一般化してはいるものの、論理構造がめっちゃくちゃな答案も目立った。一般化する場合には、必ず、答案の骨子を作成するべきである。そうすれば、論理構造が乱れることは少ないだろう。

問四

「人間は膨大な情報を処理しなければならず、情報を処理する負担を減らす必要があるから。」という答案の骨子を必須とした。しかし、この「膨大な情報を処理しなければならない」と「情報を処理する負担を減らす必要がある」を結びつける論理構造が曖昧なものが多かった。模範解答例では、単純に接続した文にしたが、例えば、「膨大な情報を処理しなければならない人間は、情報処理の負担を減らす必要があるから。」のような構造でも良かった。原因・理由の答案は、「～ため、～から。」のように、原因・理由の文脈が折り重なってしまい、骨子がつかみにくくなりがちであるので、注意が必要である。

問五

「有効性」と「ネガティブな側面」の対比構造にばかり気を取られてしまった答案が、非常に多かった。「対称性推論」が「非演繹的」とあるという文章内容に目を向けながら、その対比構造を生かせていない答案も目立った。この設問では、「論理的な結論が本質的には前提のなかにすでに含まれている」「演繹的推論」に対して、「非演繹的」とある「対称性推論」には「論理的な結論」が含まれていないゆえに、「発見的特性」がある、という論理構造を導き出せばよかった。ただただ本文の内容をなぞるのではなく、設問要求に従って、しっかりとした「説明」ができるように、練習を重ねよう。

問六

エを選んでしまう誤答が見られた。解答解説で示したように、エは、後半の部分が本文の内容に反している。時間を節約するためだったのかもしれないが、唯一の選択肢の設問であり、唯一の文章全体に関わる設問だったので、丁寧に考えるべきだった。

【採点基準】

□ 現代文

【共通基準】

1. 誤字・異字・脱字・衍字は1カ所につき1点減点。同じ漢字の誤りは1回のみ減点する。
2. 助詞誤りや主述関係の不備による「文のねじれ」がある場合は採点しない（全体不可）。
3. 字数制限
制限字数未満、もしくは超過している答案は採点しない（全体不可）。
文字・句読点同居によって制限を超えた場合も、字数超過とみなす（全体不可）。
4. 解答欄で最初のマスから書き始めているない場合は1点減点。
5. 「説明問題」の解答末尾に句点がない場合は1点減点。

問一 a～j 各2点×10=20点

問二 10点

・答案の骨子

「Aに対する違和感をきっかけにした、Bという仮説。」

が読み取れない場合は不可（＝得点なし）。

※Aは、本文箇条書き①の内容。Bは、本文箇条書き②の内容。（解説参照）

・論理構造が曖昧な答案は5点減点。

問三 10点

・答案の骨子

「日常的な習慣にとらわれて、要因を限定してしまう誤り。」

が読み取れない場合は不可（＝得点なし）。

・一般化した内容であること。（具体的説明を加えた解答の場合は8点減点）。

・論理構造が曖昧な答案は5点減点

問四 12点

・答案の骨子

「人間は膨大な情報を処理しなければならず、情報を処理する負担を減らす必要があるから。」

が読み取れない場合は不可（＝得点なし）。

・論理構造が曖昧な答案は6点減点。

・「～から。」「～ため。」「～という理由で（対称性推論により）判断すると考えている。」のように「理由」を答える文末でない場合は6点減点。

問五 12 点

- ・ 答案の骨子

「論理的な結論が用意されていないので、発見的特性があるという有効性がある。」
が読み取れない場合は不可（＝得点なし）。

- ・ 「ネガティブな側面」についての言及があること（抜けは 10 点減点）。
- ・ 論理構造が曖昧な答案は 6 点減点

問六 6 点（順不同・完答）